

地震火山観測研究センター年報：2003 年度版

<https://doi.org/10.15017/16955>

出版情報：九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター年報. 2003, 2004-11. 九州大学大学院理学研究院 附属地震火山観測研究センター
バージョン：
権利関係：



はじめに

2003年度

センター長 鈴木 貞臣



当センターは、2000年4月に島原地震火山観測所から地震火山観測研究センターに改組され、九州における地震予知観測研究の中核施設（地域センター）として位置づけられました。センターは、地殻熱活動観測研究分野と背弧総合観測研究分野よりなる2つの研究分野で構成されています。地殻熱活動観測研究分野は密度の濃い詳細な観測により、伸張応力場での活発な地殻熱活動を解明し、内陸地震や火山噴火発生に至る準備過程を研究します。そのため、雲仙火山や別府-島原地溝帯を主たるフィールドとして、島原地震火山観測所が行ってきた研究を継続して行っています。背弧総合観測研究分野はセンター化によって新設された研究分野で、九州-琉球弧を中心に東シナ海や朝鮮半島などを視野に入れた広域の地殻変形過程を研究します。そのため、自己浮上型海底地震計を導入して、海域における地震観測にも着手しました。

2003年度は、熊本県中部の布田川-日奈久断層系において稠密地震観測とGPS観測を実施して、内陸地震の発生場の研究を行うとともに、12月には全国の内陸地震研究者が集まり、5発の人工震源を800台を越える地震計で観測して地下構造を明らかにするという大規模な人工地震探査も行われました。また、日向灘においては他大学の協力を得ながら24台の海底地震計を設置しての海底地震観測を実施し、日向灘で発生するプレート境界型の地震の発生メカニズムの研究を進めています。

また、関係大学合同で実施された草津白根山の集中総合観測や富士山の火山体構造探査などに教官や学生が多数参加して、火山噴火ポテンシャル評価のための研究を行いました。一方、雲仙火山においては、雲仙科学掘削プロジェクトの主要メンバーとして研究を推進しており、1999～2001年度の山体掘削を経て、2002年度からは火道掘削研究を担い、2004年度の火道への到達を目指して掘削を続けている所です。

2004年度から国立大学は法人化され、各大学の独自性が強調される一方、上記のような関係大学共同の観測研究の遂行に支障が出るのではないかと懸念もあります。今後は、センターの研究・教育活動を学内外の方々に理解いただく必要性がより高まるとともに、観測研究の成果を社会に還元して地域防災に貢献することが今まで以上に求められると思います。

このような状況に鑑み、当センターの活動を記録し公開するため、本年も年報を作成することにいたしました。ご意見、ご批判、評価などをいただければありがたく存じます。

最後に、年報作成の助成をいただきました小田垣 孝・理学院院長と編集を担当した松島 健・山下夏樹両氏に感謝いたします。